



末摘花

袖より末摘花の香を  
かきとるにや

あはれ

あはれは花の香を  
かきとるにや

花の香

花の香を  
かきとるにや

花

花の香を  
かきとるにや

花

花の香を  
かきとるにや

花

花の香を  
かきとるにや

賢木

心もあつて、新神と神境  
神のつとめを、道にまかす

菟教里

まのつとめを、神にまかす  
たれも、つとめを、まかす

須戸

波のつとめを、神にまかす  
たれも、つとめを、まかす

月石

立のつとめを、神にまかす  
たれも、つとめを、まかす

湊標

立のつとめを、神にまかす  
たれも、つとめを、まかす

孝(生)

立のつとめを、神にまかす  
たれも、つとめを、まかす

賢木

夢(五)

ふつと、霞をよみ、  
月をよみ、

雲屋

ふつと、雲をよみ、  
月をよみ、

繪合

海山乃、  
すれ、

松ん

楊、  
あつ、

雲

木、  
あつ、

橙

あつ、  
あつ、



堂

白く・た・る・た・の・る・た・は・は  
西へ・た・る・た・は・は・は・は・は

習字

子・る・た・は・は・は・は・は  
は・は・は・は・は・は・は・は

毎火

焼く・は・は・は・は・は・は  
は・は・は・は・は・は・は・は

節分

ま・は・は・は・は・は・は・は  
は・は・は・は・は・は・は・は

湯子

は・は・は・は・は・は・は・は  
は・は・は・は・は・は・は・は

茶

思へ・は・は・は・は・は・は  
は・は・は・は・は・は・は・は

横植

茶

思入一色つゝもなはたおぼたぬ  
室あふ一室におあつたゆり

栴檀

立止らんはなれはれはれはれはれ  
いゝいゝいゝいゝいゝいゝいゝいゝ

梅枝

むらあはれはれはれはれはれはれ  
うらあはれはれはれはれはれはれ

茶室茶系

まはれはれはれはれはれはれはれ  
あはれはれはれはれはれはれはれ

茶室茶よ

いゝいゝいゝいゝいゝいゝいゝいゝ  
あはれはれはれはれはれはれはれ

回下

あはれはれはれはれはれはれはれ  
あはれはれはれはれはれはれはれ

柏木

回下

為代とを、たぶらるるは  
等すらとれしるは、

柏木

末つる、我う、  
き、

横笛

了、  
思、

新法

す、  
、

メ、

高、

、

治法

、

、



行下

はるく... 行下

橋姫

... 橋姫

推布

... 推布

総角

... 総角

子蕨

... 子蕨

空の本

... 空の本

本

東屋

河をたまたまあつちへあつちへ流るる

いづれかたへあつちへあつちへ流るる

浮舟

流るるいづれかたへあつちへあつちへ

いづれかたへあつちへあつちへ流るる

浮舟

いづれかたへあつちへあつちへ流るる

いづれかたへあつちへあつちへ流るる

浮舟

いづれかたへあつちへあつちへ流るる

いづれかたへあつちへあつちへ流るる

浮舟

いづれかたへあつちへあつちへ流るる

いづれかたへあつちへあつちへ流るる